

学校経営の概要

1 校 是「人間開眼～人間力を高める教育の実践～」

2 学校教育目標

「向上心 ～夢を抱き 自ら学ぶ 心優しく たくましい生徒の育成～」

3 教育基本方針

近年、国内外で社会情勢が急速に変化し、教育を取り巻く環境も複雑多岐になっている。これまでの当たり前の日常が当たり前でなくなる現実を私たちは日々経験している。一方で、ICT や AI 等先端技術の急速な進歩は、私たちの暮らしに様々な変化をもたらしている。そのような予測困難と言われる時代の中で、未来を生きる子どもたちには、「なりたい自分」「ありたい未来」を胸に抱き、自己のみでなく主体的に他者と協力・協働しながらその実現に向けた課題を発見・解決し、新たな価値を創造する、しなやかに、たくましく「生き抜く力」を育てていきたい。

本校には、社、福田、米田、三草、鴨川の5つの小学校をはじめとして規模や環境がそれぞれ異なる小学校から生徒が入学してくる。日本語指導を要する生徒を含め特別な支援を要する生徒も増加傾向にあり、生徒一人ひとりの実態はもちろん、生徒を取り巻く生活・社会環境にまで目を向けた指導が必要である。一方で、不登校やいじめ防止対策等重大かつ学校だけでは解決困難な教育課題もあり、関係機関の指導支援の下、家庭や地域との連携を図りながら取り組んでいくことが不可欠である。

また、本校区においては、令和7年度(2025年度)に、本校と5つの小学校が一つとなった小中一貫校「社会学園」が開校予定であり、本年度が現「社中学校」としての最終年度となり、次の「社会学園」に向けて教育活動の円滑な移行が求められる。すでに全市立学校において、さまざまな立場の人との交流や体験学習、協同学習やICT機器の活用等による仲間たちとの学び合いなど、「ひと・もの・こと」の「つながり」を通じた「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成することを目指した小中一貫教育の取組みは推進されている。

これらのことを踏まえて、義務教育後期にあたる中学校として、これまで本校が目指してきた「向上心」を教育目標の中心に据え、困難があっても他者と協力・協働しながら自らの力で未来を切り拓こうとする生徒の育成をめざしていく。

(1) めざす学校像：**学び合い、笑顔あふれる学校**

- 子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校
- 教職員がいきいきと教育活動ができる学校
- 保護者・地域から信頼される学校

(2) めざす子ども像：**「生きる力」を身につけ、自立する子ども**

- 自ら学び、よく考えて行動できる子ども
- 豊かな心で、自分も他者も大切にできる子ども
- 明るく健康で、たくましく生きる子ども

(3) めざす教師像：**人間力に富み、子どもの成長を保障する教師**

- 教育の専門家として自覚と使命感を持ち、常に自己を高めようとする教師

- 明るく元気で、子どもや保護者の思いに寄り添うことができる教師
- 礼儀正しく、人権意識を高く持って他者と接することができる教師

(4) 学校経営の重点（重点施策） ※下線:令和6年度社地域小中一貫教育重点施策

① 「子どもたちが楽しく学べる安心・安全な学校」にするために

- 小中一貫校「社会学園」への円滑な移行を意識した校種間連携の推進
- 規律ある学校生活の意識高揚と徹底（学習規律の徹底、校則の順守、ノーチャイム制）
- 家庭学習の習慣化、読書活動の定着に向けた取組みの推進
- 協同学習の手法を取り入れた豊かな対話のある、よくわかり、よく考える授業づくり
- 異年齢交流による人間関係づくり
- 互いの良さや違いを認め合い、安心して過ごせる学年・学級集団づくり
- 健康・安全等個に応じた指導上の配慮をしながら、生徒の自主的・自発的な取組みを引き出す部活動の実施
- 新体力テストから見える課題解決に向けた体力・運動能力の向上
- 発達段階に応じたキャリア教育の推進
- 道徳教育、人権教育、防災教育、安全教育の充実
- 他者を思いやり、いじめを許さない心情の醸成
- 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- 家庭・地域と連携し、学校給食を活用した望ましい食習慣の定着と、「早寝」「早起き」等基本的な生活習慣の実践による心身ともに健康な体づくり
- 生徒の自発的・主体的な参画による特別活動の実施
- 情報モラルの徹底と情報活用力（「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」）の育成
- 生徒の多面的かつ共感的理解や人間的なふれあいに基づく、教師間の緊密な情報共有、行動連携による組織的な生徒支援・指導体制の徹底（予防的・開発的生徒指導の推進、不登校対策等学校不適応防止の取組）

② 「教職員がいきいきと教育活動ができる学校」にするために

- 定時退勤を意識した計画的な業務遂行の推進
- 校務・業務のIT化、PDCAサイクルに基づいたスクラップ&ビルドによる業務改善の推進
- 記録簿による勤務時間の把握と割り振り変更の適正な実施
- 教職員個々の能力や適性を生かすハラスメントの無い心の通い合う職員集団づくり

③ 「保護者・地域から信頼される学校」にするために

- HPや学校だより、学級だより、生徒指導通信等を通じた保護者や地域への情報発信
- 地域人材や地域資産を活用した体験学習の充実
- 学校オープン等を通じた保護者や地域住民の教育活動への参画
- 教職員の非違行為禁止等綱紀粛正の徹底
- 学校評議員会や保護者アンケート等の結果に基づく学校改革の推進

(5) 教育課程編成の基本方針

- ① 法令及び新学習指導要領（平成30年版）、ひょうご教育創造プラン、県教委「令和6年度指導の重点」、加東市教育大綱、第3期加東市教育振興基本計画の示すところに従う。
- ② 生徒の実態や発達の特性、保護者や地域の願いをふまえる。
- ③ 校区の特性を生かしつつ、過去3年間のコロナ禍での教育活動の成果と課題をふまえながら、本校ならではの特色ある教育活動を位置づける。

(6) 研究主題

「生徒が主体的・協同的に課題解決に取り組むための授業づくり、集団づくり ～学びの自覚化を目指して～」

- ①課題づくりの工夫
- ②伝え合い、つながり合う場の工夫
- ③授業力の向上
- ④基礎学力の定着のための取り組み
- ⑤校内研修の充実